

災害がおきたらどうする？

避難に支援が必要な方への「災害時要援護者支援」について

自分で備える

自宅でできる
災害の備えをする



住んでいる場所の
危険を確認する

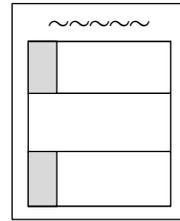


避難のしかたを
家族で話し合う



地域で支える

災害時要援護者
に登録する



地域との交流
を深める



地域の避難訓練や
地域活動に参加する



ひめじ防災ネット

登録して避難情報を受け取りましょう

① himeji@bosai.netへ

空メールを送信。

② 返信メール本文内の利用
規約（必読）に同意して
登録。



災害時要援護者支援制度に
関わるお問い合わせ先

姫路市地域福祉課

姫路市安田四丁目1番地

TEL 079-221-2455

自分で備えて、地域で支える。

災害時要援護者支援事業は、避難に際して支援が必要な以下のような方を支援する取組です。

- ①高齢者（一人暮らし、高齢者のみの世帯、寝たきり、認知症など）
- ②障害のある人（身体障害、知的障害、精神障害など）
- ③その他（難病の人、妊婦、日本語に不慣れな外国の人など）

自分で備える

備蓄や家具の転倒・落下防止

食料品や懐中電灯等必要な物資の備蓄を普段から心掛けましょう。

また、家具が転倒・落下しないよう、予防をしておくようにしましょう。



災害リスクを知ろう

洪水、高潮、土砂災害など身の回りには様々なリスクがあります。

平時から、「ハザードマップ」で住んでいる地域の災害リスクを確認し、避難が必要か確認しましょう。

姫路市
ハザードマップ



「避難」とは、「難」を「避」けること。特に、前もって予測できる台風等では、小中学校や公民館だけではなく、安全な親族・知人宅や宿泊施設も避難先として検討しましょう。

指定避難所

安全な
親族・知人宅

宿泊施設

避難行動を家族で話し合おう

「ハザードマップ」や「命のパスポート」を活用して、家族で避難行動を話し合しましょう。

姫路市
命のパスポート



- ①ハザードマップで自宅周辺に色がついていないか確認しましょう。
- ②自宅周辺が被害に遭う場合は、避難場所を検討しましょう。（自宅が安全な場合は、自宅で安全を確保。前もって食料品の備蓄や停電・断水に備える。）
- ③避難場所や避難ルートに危険がないか確認しましょう。また、避難をはじめのタイミングや支援が必要な内容を話し合しましょう。



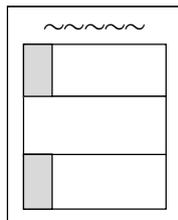
地域で支える

災害時要援護者台帳に登録しよう

避難行動を検討し、地域の支援が必要であれば、災害時要援護者台帳に登録しましょう。

ただし、災害時には地域の方も被災するので、必ず支援を受けることができるとは限りません。

家族等での支援だけでは避難ができない、または、家族等の支援を受けられない方は、登録を申し出てください。



防災訓練や地域活動に参加しよう

災害があった時にだけ協力することはなかなか難しいので、地域の防災訓練があれば、参加することで検討した避難行動の課題が見つかるかもしれません。

また、災害時の避難支援をスムーズにするためにも、日頃から地域のつながりを育むことも大切なことです。地域活動に可能な限り参加をするなど交流を深め、「顔の見える関係づくり」をしておきましょう。



災害時要援護者台帳は、緊急時にかかりつけ医や常用薬などの情報を救急隊員が把握し、搬送に役立つ救急医療情報キットとしても使用できます。地域の方から筒状のキットを渡されたら、台帳を中に入れ、冷蔵庫で保管してください。

地域のみなさまには、キットのお渡しの際に見守り活動をしていただくようお願いしていますので、交流を深めるきっかけとしてください。

